

【参考1】 トキ保護の経緯

- (1) 我が国のトキは、明治時代の乱獲により激減し、その後も生息環境の悪化などにより、地域住民の地道な保護活動にも関わらず個体数はさらに減少した。
昭和56年、野生のトキが5羽まで減少したところで、環境庁（当時）は、全ての野生のトキを捕獲し、人工増殖による個体数の回復を目指したが個体数の回復には至らなかった。
- (2) 平成11年に中国より1つがいのトキの贈呈を受けて、トキの人工繁殖に成功した。それ以降、トキの繁殖は軌道にのり、飼育下において153羽まで個体数が増えている。
- (3) 平成15年3月には関係省庁・行政機関等と連携し、環境再生ビジョンを公表し、平成27年頃に佐渡市の小佐渡東部地域に60羽のトキを定着させるという目標を定め、平成16年にはトキ保護増殖事業計画にトキの野生復帰を位置づけたところ。
これらを受けて、我が国で最後までトキが生息していた佐渡島において、関係行政機関、地域住民等がトキの野生復帰に向けた生息環境整備などの取組みを展開している。
- (4) 環境省では、中国とのトキ保護に関する協力を進めながら、健全なトキの個体の確保に努めるとともに、トキが野生下で順応できるよう、トキの訓練施設となる野生復帰ステーションを整備、平成19年7月よりトキの野生順化訓練を開始し、平成20年9月25日に10羽（オス5羽、メス5羽）のトキを放鳥した。
- (5) 昨年放鳥したトキのうち、オス4羽は新潟県佐渡市、メスは新潟県糸魚川市、富山県黒部市、新潟市で確認されている（8月3日現在）。
オス1羽は放鳥直後より不明、メス1羽は3月18日に新潟県胎内市で確認された後不明、メス1羽は昨年12月14日に死亡が確認されている。

【参考2】 我が国の飼育下におけるトキの個体数

○佐渡トキ保護センター	: 105羽（うちH21生 27羽）
○同センター野生復帰ステーション	: 34羽（うちH21生 6羽）
○多摩動物公園（東京都日野市）	: 14羽（うちH21生 10羽）
合計	153羽（うちH21生 43羽）

（8月3日現在）

